

2015年10月13日

ジャカルタ ジャパン クラブ  
会 員 各 位

ジャカルタ ジャパン クラブ  
邦人安全対策連絡協議会

本協議会から最近の治安状況等についてお知らせいたします。会員各位ならびにご家族、また関係のご出張者におかれましては治安状況等に十分ご留意いただき、掲載の事件・事故と同様の被害に遭われないよう十分ご注意ください、ご周知ください。

\* J J C 邦人安全対策連絡協議会 TEL : 315-0418  
FAX : 3192-5902  
\* 在インドネシア日本国大使館 TEL : 3192-4308

## 1. 最近の政治・治安情勢

(1) 既に報道されている通り汚職撲滅委員会 (KPK) の改正法案が国会に提出されており、今後内政に影響を与え得ると思われる。

(2) 治安情勢に関しては、テロ事件の報道はない。既に大使館からのお知らせとして発出しているとおり、先月 10 日の ISIL のオンライン雑誌ダービク 11 号において日本は十字軍に参加する国として名指しされ、ボスニア、マレーシア、インドネシアにある日本の外交施設を攻撃対象の例示の一つとして挙げられた。以前もシリアでの邦人殺害テロ事件の際に、日本を標的に含むと名指しされた経緯があり、今回が初めての言及ではない。

今月 3 日にダービク 11 号インドネシア語版がインターネット上に掲載されている。大使館においてはインドネシアに駐在する日本外交使節団や日本人、日本関連施設、日本権益等に対する具体的な脅威情報は把握していない。

## 2. 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 先月は車上狙い、パンク強盗、置き引き被害の報告があった。

また、先月 7 日には、南ジャカルタのマンションに住む邦人女性が殺害される事件が発生し、犯人は検挙されている。今回の事件について把握していることは以下のとおり。

- ・ 犯人は居住マンションの警備員であり金品窃取の目的で犯行に及んだ。
- ・ 予め玄関の鍵に細工をする等、その機会をうかがっていた。
- ・ マンションで一人暮らしをする女性が狙われた。

改めてこの機会に注意喚起をさせて頂きたい。基本は「自分の安全は自分で守る」ということである。海外に暮らすということは危険と隣合わせの環境にあると言っても過言ではなく、日本人は金持ちであるというイメージが当地の人には少なからずあると考えられる。そ

のため、外出する際は目立った格好、行動をしないという事を心がけ、夜間の行動にも注意して頂きたい。また、今回の事件においては鍵に細工がされていたことから、普段と何か違うと感じた場合は、信頼できる人に相談する、自分の行動パターンを見直す等、特に赴任期間の長い方でも油断することなく、防犯意識を持って生活して頂きたい。ご家族にも注意喚起を願いたい。

(2) それでも万が一、犯罪に巻き込まれた場合には、生命や身体の安全を第一に考えて犯人の要求に抵抗しないという態度を示すことが大切。当地でも刃物を使用した複数人による強盗事件が発生しており、一見単独に見えても近くに仲間が潜んでいる、或は刃物、拳銃を隠し持っているということもあり、抵抗することでその後の被害が拡大する可能性があるため、生命の安全を第一に考えて行動して頂きたい。当館としても類似の事件が今後発生しないよう、治安当局に警備強化を申し入れたが、引き続き在留邦人の皆様にも意識を高く持って生活していただきたい。

### 3. 最新の医療事情

ヘイズについて、スマトラ島及びカリマンタン島の野焼きの煙害で大きな被害が出ている。ジャカルタ、バリ島においては、影響はないが、11月以降の雨季に入るまでは出張や休暇等でスマトラ島、カリマンタン島へ行かれる方は注意を願いたい。

### 4. 在マカッサル領事事務所

南スラウェシ州マカッサルにおいて、一般的な窃盗や引ったくり等の事件は発生しているが、町を歩いていて身に危険を感じるという状況ではない。

これまでは学生デモの町として名を馳せていたが、昨年の燃料補助金撤廃の際も比較的平穏に推移した。ただ、夜間は暴走族紛いの行動が見られるため、夜間の外出は出来るだけ控えるよう案内している。

中部スラウェシのポソにおいては一部テロ活動が行われており、治安当局との銃撃戦も発生している。出張等で現地を訪れる場合等は十分に注意願いたい。

マカッサルはインドネシアの中では比較的経済が好調に進展しており、トラジャ等独特の文化を有している。機会があれば是非ご来訪下さい。

### 5. 河内領事部長からの発言

査証免除に関して、対象が5空港、9海港になり、最近その空港・海港以外からの出国も可能となった。詳しくは大使館のホームページをご確認頂きたい。

### 6. 質疑応答、各社(団体)からの報告等

(報告)

中部スラウェシのルークにプロジェクトがある。ポソが今年の初めより話題となって以来、

プラントを出て空港との往復等は、セキュリティーをつけ相当配慮した行動をとっている。

(報告)

9月15日以降にMM2100工業団地内において、労働監査が複数回にわたって行われている。外国人を雇用するに当たって必要書類を所持しているか、県の役員やイミグレ、警察が同行したモニタリングで、現在のところ数社へのモニタリングがあったが、特に不当な金銭の要求もなく、調査は淡々と行われて、大きな混乱は無く終了している。事前にブカシ県の地方政府からレターが届き、日時の通知もされており、1時間程度現地スタッフのみが対応する程度の内容。

又、SKPTKA(外国人労働者報告証明書)の提示を求められたが、所持していない場合も指導のみに留まっている。

(報告)

到着時ビザ(VoA)ではなく、訪問VISA(#211)で入国しようとした際に、リターンチケットの提示を求められた。該当者はまだ手配していなかったため、マニュアルのようなものを見せられ、色々やりとりをした(途中で当該者の受入会社のインドネシア人HR責任者と電話で話すなど)が、結果的に100万ルピアの罰金をその場で支払わされた。

その他にも、隣で審査を受けていた韓国人らしき人が、同じような理由で、100米ドルの罰金を支払わされていたのを目撃。また、中国人らしき人も、同様の指摘を受けたが、VoAを取っていなかったため、VoAの手続きを指示され、その後その担当官のところに中国人は戻ってこなかったという状況。

リターンチケットは、VoAではチェックされる項目と理解していたが、訪問ビザでもチェックされるという体制になったようなので、予めリターンチケットを準備しておくようアナウンスをしておくのが良いだろう。

(報告)

当社関連企業にイミグレーションの査察が入った際に、VoAにて入国し商談中だった社員が連行されたが、当社職員が電話にて説明した結果、金銭の要求もなく無事釈放された。

(質問)

セルベス、ポソでのイスラム過激派の掃討に関して、当初は警察が担当していたが、最近では警察から国軍が指揮を執っている様だが、最近治安が悪化した影響なのか、警察と国軍との権力争いの結果なのだろうか。

(回答)

特に悪化しているという事はないが、警察と軍の関係については把握していない。  
マカッサル市の行事の際に陸軍第 7 管区治安維持部隊がデモンストレーションを行っていたので、陸軍としても力を入れているという認識を持っている。

(回答)

報道によれば元々警察と軍が入っており、警察が撤退したということではないようだ。

(回答)

現場では警察と軍が共同でオペレーションを組んでいるとのこと。現場がジャングルのため、警察だけでは不十分と思われる。

(報告)

ジャカルタのパスポートコントロールデスクにて、東ジャワ州マランの工場へ器機のメンテナンスのため来訪した技術者向けに 2 週間の就労ビザを取得して入国した。マランではパスポートに捺印・署名するタイプの短期 KITAS となっており、KITAS カードは発行されない。このため KITAS を所持していないという理由で 250 米ドルの罰金を請求されたが、人事部担当者よりマランの短期就労ビザの説明を電話にて伝え解放された。簡易 KITAS を利用する際は入国前にインドネシア語の条文のコピーを携帯する等の対応をしたい。

(質問) JJC

カラワンでも短期就労者の KITAS はパスポートに捺印されるタイプと聞いたが、情報があればお願いします。

(バンドウン日本人会)

先月 19 日に夏祭りを主催し 400 名以上の参加者があり、事故もなく盛況のうちに終わった。

(報告) JJS

2 月 26 - 27 日の JJS フェスティバルを無事開催。先月 10 日の ISIL の報道を受け、学校の警備・安全強化についてセコム の指導により水際での管理、JIS に倣った徹底した警備に務めている。

小学校低学年において、水疱瘡の流行が見られたが収束に向かっている。

(質問) JJC

MM2100 でのイミグレーション・労働省・警察の査察に際して、焦点となったのは SKPTK

の不所持について主に指摘が多かったのだろうか。6月19日に施行された労働大臣令第16号では、

- ・外国人1人対、インドネシア人10人の雇用。
- ・非居住取締役コミサリスのIMTA取得
- ・日本からの短期出張者のIMTA取得義務、の3点が新たに規定されたが、この点についての指摘があったかどうかについて伺いたい。

(回答)

外国人就労に際して必要な書類を所持しているかという観点で調査が行われ、その中で数社がSKPTK不所持という指摘を受けた。調査がどのような観点で行われたかは把握していない。SKPTKについて問題があったと報告が挙がっている。

(報告) JJC

中央ジャカルタにおいても3件ほど労働局からの査察が入ったと報告があり、その中で先ほどの3点に関する指摘があったと聞いている。

現在、労働問題委員会においても本件注目しており対応中だが労働省との対話が実現せず、今後の解決法を考えていきたい。

また、JJCホームページに記載しているが、企業、工場へイミグレーション、労働省が査察に入り、法令に適合していないという理由でその場で罰金を取る事例を受け、労働問題委員会の委員の協力を得て、当地の弁護士に法的解釈の回答書の作成を行った。内容は、裁判或は略式起訴等で司法の判決をもって量刑が決まるものであり、現場の査察官が量刑を判定し金銭を収受する事は不適切であるという主旨の回答書である。

しかし無闇に抗弁をする事により悪い状況を招かないよう、各総務担当の方には無理のない範囲で主張していただくという姿勢が必要と思われる。

(報告)

今年7回目のジャカルタジャパン祭りは、スリの被害の報告を聞かなかった。これは開催以来初の事で、また多くの来場客が高価な携帯を所有し各自で撮影をしている姿に、インドネシアの現状を表していると感じた。

今回の海外邦人安全対策連絡協議会は、2015年11月10日(火)午前11時から